

統計調査ニュース

令和7年（2025年）6月

No.463



多様性時代の基幹統計調査の意義

ニッセイ基礎研究所 生活研究部人口動態シニアリサーチャー

天野 馨南子

基幹統計調査とは、国勢調査や住宅・土地統計調査など、国が作成する統計のうち総務大臣が指定する特に重要な統計調査をいいます。その中でも最も重要な統計が今年（令和7年）実施される、人口や世帯の実態を明らかにするために日本に住む全ての人や世帯を対象に行われる国勢調査です。

わが国では、教育水準や教育内容、労働法の改正などが急速に進む中で、わずか親子一世代間（30年程度）で、理想のライフデザインが激変しています。そのような中で最近では、「多様化」「多様性」といった言葉が当たり前のように聞かれるようになりました。そして多様性の時代だからこそ生じる、異なる価値観をもつ相手への「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」「モラル・ハラスメント」がクローズアップされるようになりました。しかし、多様性という言葉のイメージが漠としていることから、情動的な議論によって問題解決が難しくなったり、かえって対立が深まったり、何から

取り組んだらいいのかわからなくなったりといった弊害もみられています。

多様性が尊重される社会では、これまで以上に政府の統計調査の重要性が際立つようになります。なぜでしょうか。どんぶり勘定の総数主義で測定して多数派を「国民の総意」と紹介するような結論には、疑義が持たれる社会となったからです。

「多様」を知るためには、調査する母集団の網羅性の確保は当然のことながら、男女別、年齢（階級）別、地域別にサンプルの偏りがない状態で測定した調査結果が必要不可欠です。恣意性なき母集団から生み出される基幹統計調査は、多様性時代において至高のデータソースであり、更なる分析の宝庫といえるでしょう。「それは貴方の感想ですよね？」という言葉に代表される情動論から脱却し、エビデンスに基づく闊達な議論が行われる社会に移行するために、基幹統計調査の更なる活用が望まれます。

目次

多様性時代の基幹統計調査の意義	1	令和7年6月17日(火)開講
令和7年国勢調査の円滑な実施に向けて(その8)		「社会人のためのデータサイエンス入門」受講者募集中
一外国人世帯や視覚障がいのある方に向けた取組について	2	／統計博物館へ是非お越しください！
家計調査(貯蓄・負債編)2024年(令和6年)平均結果の概要	3	「明日への統計2025」を御活用ください
		令和7年度統計研修 本科(総合課程)(後期)の御案内
		令和6年度「本科(総合課程)」を受講して

令和7年国勢調査の円滑な実施に向けて(その8) ー外国人世帯や視覚障がいのある方に向けた取組についてー



総務省統計局では、令和7年国勢調査の円滑な実施に向けて様々な準備を進めており、5月号ではインターネット回答の更なる推進に向けた取組を御紹介しました。今回は、外国人世帯や視覚障がいのある方に向けた取組について御紹介します。



国勢調査は、我が国に住む全ての人・世帯が対象となる調査ですので、全ての人にとって答えやすい調査を目指しています。そこで今回は、外国人世帯や視覚障がいのある方に向けた取組を御紹介します。

1 外国人世帯に向けた取組

国勢調査では、外国人の方であっても、日本に3か月以上滞在している又はその見込みがあれば調査対象となります。

前回調査までは、日本語を理解できない外国人世帯があった場合、調査員は「外国語連絡票」を用いて世帯が理解できる言語を確認した上で、当該言語で調査票及びその記入方法等を記載した「調査票対訳集」を配布していましたが、この方法は調査員の負担が大きいといった課題がありました。

令和7年国勢調査においては、調査書類とともに配布される「外国人向けリーフレット」に記載されたQRコードを読み取ると、「国勢調査2025キャンペーンサイト」内の「外国語サポートページ」にアクセスしますので、その案内に沿って御回答いただくことが可能です。なお、前回調査に引き続き、インターネット回答用の電子調査票について、日本語のほか、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語の主要7言語への対応を実施し、利便性の向上を図ります。

〈外国人向けリーフレットのイメージ〉
※紙面はイメージです。

〈電子調査票（英語・スマートフォン）のイメージ〉
※画面はイメージです。



2 視覚障がいのある方に向けた取組

国勢調査では、インターネット回答用の電子調査票において、画面に表示する文字を拡大する機能を始め、視覚障がいのある方や高齢者にとって答えやすい設計に取り組んできました。

前回調査に引き続き、令和7年国勢調査においても、スマートフォンやパソコンの音声読み上げソフトに対応した専用の電子調査票を御提供するとともに、新たな取組として、調査書類収納封筒に音声コードを印刷します。

家計調査(貯蓄・負債編)2024年(令和6年)平均結果の概要

家計調査では、世帯の収入や支出のほかに貯蓄・負債の保有状況を調査しています。この度、貯蓄・負債編の2024年(令和6年)平均結果を2025年5月16日に公表しましたので、その概要を紹介します。

1 貯蓄現在高は1984万円で、前年に比べ4.2%増加し、比較可能な2002年以降で最多

二人以上の世帯における2024年平均の1世帯当たり貯蓄現在高(平均値)^{※1}は、1984万円で、前年に比べ80万円、4.2%の増加となり、6年連続の増加となるとともに、比較可能な2002年以降で最多となりました(図1)。

貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、平均値(1984万円)を下回る世帯が約3分の2を占めています。また、貯蓄保有世帯の中央値^{※2}は、1189万円(前年1107万円)となりました(図2)。

※1 貯蓄現在高が「0」の世帯を含めた平均値

※2 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄現在高が「0」の世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。

図1 貯蓄現在高の推移(二人以上の世帯)

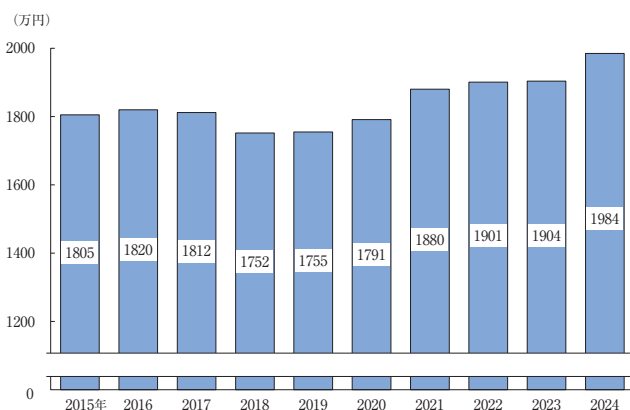
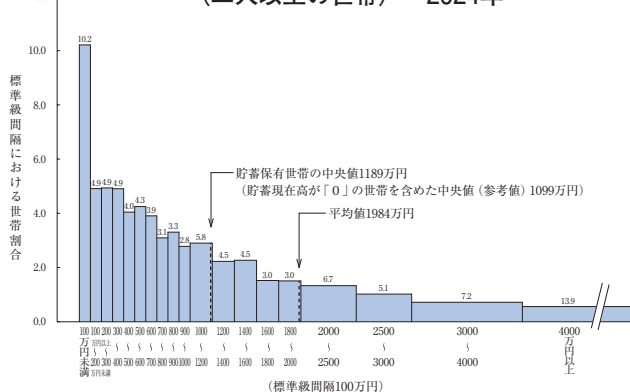


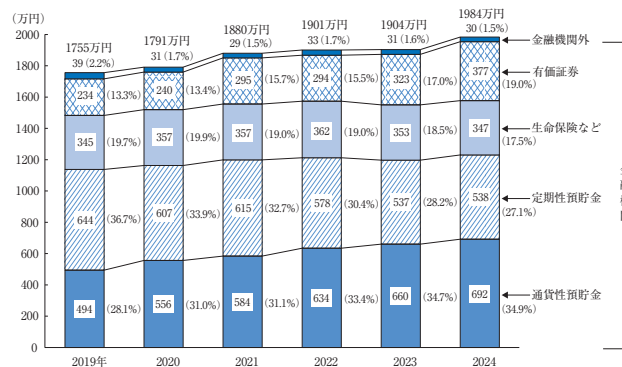
図2 貯蓄現在高階級別世帯分布(二人以上の世帯) - 2024年 -



2 通貨性預貯金は16年連続の増加

二人以上の世帯について貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高の推移をみると、通貨性預貯金は、前年に比べ32万円の増加となり、16年連続の増加となりました。有価証券は、前年に比べ54万円の増加となりました(図3)。

図3 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移(二人以上の世帯)



注) () 内は、貯蓄現在高に占める割合

3 負債現在高は663万円で、前年に比べ1.2%の増加

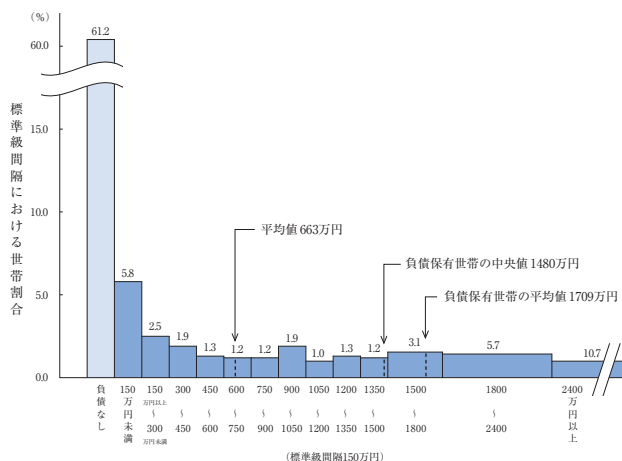
二人以上の世帯における2024年平均の1世帯当たり負債現在高(平均値)^{※1}は、663万円で、前年に比べ8万円、1.2%の増加となりました。また、負債の種類別に負債現在高をみると、負債現在高の92.3%を占める住宅・土地のための負債は、612万円で、前年に比べ11万円、1.8%の増加となりました。

負債現在高階級別の世帯分布をみると、負債保有世帯の割合は38.8%となっており、そのうち、負債保有世帯の平均値(1709万円)を下回る世帯が55.3%を占めています。また、負債保有世帯の中央値^{※2}は、1480万円(前年1422万円)となりました(図4)。

※1 負債現在高が「0」の世帯を含めた平均値

※2 負債保有世帯の中央値とは、負債現在高が「0」の世帯を除いた世帯を負債現在高の少ない方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の負債現在高をいう。

図4 負債現在高階級別世帯分布(二人以上の世帯) - 2024年 -



令和7年6月17日(火)開講 「社会人のためのデータサイエンス入門」受講者募集中



総務省は、統計リテラシー向上のための取組として、「データサイエンス・オンライン講座」を開講しています。その講座の一つである「社会人のためのデータサイエンス入門」を令和7年6月17日(火)に開講します。

本講座は、統計学の基礎や統計データの見方等、統計データ分析の基本的な知識を学習します。これからデータサイエンス力を身につけたい全ての社会人・大学生に最適な入門編講座です。

- 開講期間 令和7年6月17日(火)～8月19日(火) 予定
- 学習時間 1回10分程度×6～9回程度(1週間)×4週
- 課題 各週の確認テストと最終課題の実施
- 講師 安宅和人氏(慶應義塾大学環境情報学部教授)ほか

統計学のプロフェッショナルが分かりやすく解説する講座をあなたも受講してみませんか？

どなたでも受講登録が可能(登録料及び受講料無料)ですので、是非、御登録ください。

(注) 本講座は、令和6年6月に実施した講座を再び開講するものです。

「社会人のためのデータサイエンス入門」講座内容

週	各週のテーマ	内容
1	統計データの活用	統計データを用いた分析事例を知り、統計リテラシーを学ぶ
2	統計学の基礎	データ分析に必要な統計学の基礎を学ぶ
3	データの見方と表し方	データの見方と適切なグラフの選び方を学ぶ
4	公的データの使い方	誰もが使える公的統計データの取得方法と使い方を学ぶ

「社会人のためのデータサイエンス入門」
受講登録はこちらから

<https://gacco.org/stat-japan/>



統計博物館へ是非お越しください！

「統計博物館」は、広く統計への関心を深め、統計調査に対するより一層の御理解をいただくことを目的として開設しています。

日本の公的統計は、明治4年(1871年)、太政官正院に統計局の前身である政表課が設置されてからその歴史を歩み始めます。

統計博物館では、明治期や戦後の偉人に関するパネル、明治初期からの統計に関する貴重な文献、古い集計機器などを展示しています。



▲機器にみる統計の歩み

また、最新の統計情報や古資料をデジタルパネルで紹介するほか、テーマ展示や統計調査結果など分かりやすく展示した「企画展示ブース」、最新の統計データに関するサイトを操作することが可能な「体験ブース」など、様々なコーナーを用意しています。

本年10月には令和7年国勢調査が行われます。統計

博物館では、大正9年(1920年)の第1回国勢調査の資料から令和7年国勢調査の概要まで、国勢調査の歩みについて展示しています。



▲企画展示(はじまります！国勢調査)

是非、『統計博物館』で統計の歴史を直に感じてみてください。

※ 御来館時、庁舎敷地内に入る際に、身分証明書、学生証等の御提示が必要です。

団体(おおよそ10名以上)でお越しになる場合には、2週間前までに下記までメール(又は電話)で、御連絡ください。

所在地：東京都新宿区若松町19-1

(総務省第二庁舎敷地内)

開館時間：平日9:30～17:00

休館日：土曜日、日曜日、国民の祝日・休日及び
年末・年始

電話番号：03-5273-1187

メール：stat_museum@soumu.go.jp

「明日への統計2025」を御活用ください



総務省統計局では、統計調査の円滑な実施と結果の利活用を推進するため、同局が実施する統計調査結果を分かりやすくまとめた冊子「明日への統計」を毎年作成しています。

この度、「明日への統計2025」を作成しました。「明日への統計2025」では、以下の3分野について、紹介しています。

調査を依頼する際の説明資料や統計調査の広報等幅広く御活用いただくとともに、一人でも多くの皆様の統計調査への理解を深めていただく一助となれば幸いです。

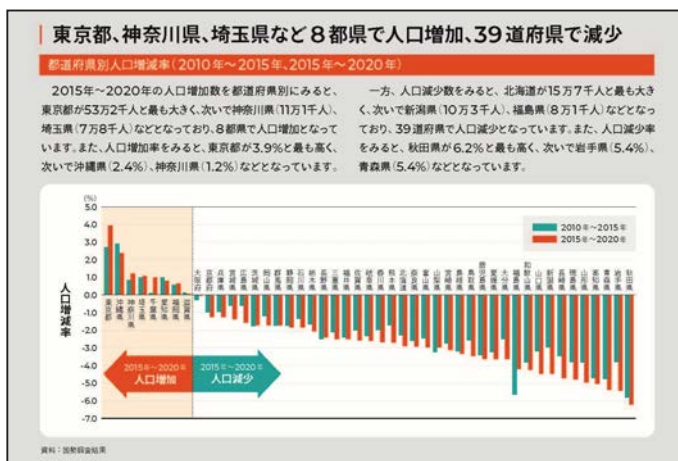
明日への統計2025は総務省統計局ホームページでも御覧になれます。

<https://www.stat.go.jp/info/guide/asu/>



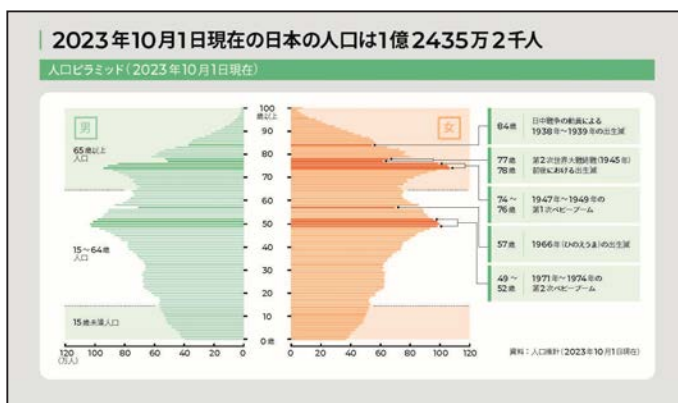
【特集】今年度実施予定の主要統計調査

- 「令和7年国勢調査」に期待されることについて、東京大学名誉教授廣松毅氏の解説を掲載しています。
- 調査の概要及び前回調査（令和2年国勢調査）の結果を紹介し、本調査でどのようなことが明らかにされるのかについて解説しています。



調査の結果からわかること

- 我が国の社会・経済の状況について、図表やイラストを多用し、より視覚的に分かりやすく紹介しています。
- 「日本の人口」、「住宅・世帯のすがた」、「労働のようす」、「こどものようす」、「高齢者のようす」、「家計・物価のうごき」、「企業のすがた」の7つのテーマから紹介しています。



統計情報の利用について

- 各府省が公表する統計データの取得や地図上に表示する機能等を備えた政府統計の総合窓口(e-Stat)、データに基づいて課題を解決する“データサイエンス”力の高い人材育成のための取組、地方公共団体の統計データ利活用支援の取組等を紹介しています。



》》令和7年度統計研修 本科（総合課程）（後期）の御案内《《

総務省統計研究研修所では、国、地方公共団体の職員（教員を含む。）及び政府関係機関の職員を対象に、統計作成の中核を担う統計人材の育成及び統計を政策の立案等に活用するための統計リテラシーの向上を目的として、様々な研修を実施しています。

今回は、今年度から年2回（前期：6月上旬～8月上旬、後期：10月上旬～12月上旬）の実施となりました「本科（総合課程）」の後期について御紹介します。

※前期・後期で講義内容は同じです。講義内容や日程などは変更になる場合があります。

令和7年度「本科（総合課程）」（後期）

研修期間：令和7年10月上旬～12月上旬

募集締切：令和7年7月下旬

募集人員：30名

対象：初級及び中級のオンライン統計研修

5講座（※）修了者

（※）初級「初めて学ぶ統計」

「統計担当者向け入門」

中級「統計分析の基本」

「統計利用の基本」

「調査設計の基本」

（受講予定者は、受講決定後に上記5講座の研修を受講することも可能です。）

本科（総合課程）は、各種行政施策の企画・立案・評価に必要な統計の知識・理論、分析手法と広範囲な応用力の習得を目的として実施しています。

本課程を受講することで、統計に関する知識を網羅的に習得することができます。また、この知識を応用して、統計業務のみならず、各種行政施策の企画・立案・評価を行う際に、統計を活用した分析が可能となります。

～主な講義内容を御紹介します～

本科（総合課程）では、統計教育及び統計業務の第一線で活躍されている経験豊富な講師が講義を行います。講義における演習も充実しており、演習を通じて知識の定着を図るとともに、現場での実践力を養成します。また、一部の科目では、講義内容の効果測定として試験を実施します。

基礎科目：統計解析ソフト(R)によるグラフ作成演習

統計解析ソフトRを使ったグラフ作成・分析ツールの使い方などを習得します。

統計学：記述統計、推測統計、多変量解析など

記述統計では、オンライン統計研修「統計分析の基本」の「記述統計基礎・演習」で学んだ基本統計量、度数分布表の作成などを復習します。推測統計では、オンライン統計研修「統計分析の基本」の「推測統計概論・演習」で学んだ確率・確率分布や区間推定、仮説検定、誤差の推計方法などを復習します。多変量解析では、オンライン統計研修「統計分析の基本」の「重回帰分析の基本」で学習した重回帰分析の方法を踏まえ、多変量解析の手法を応用した演習中心の講義を行い、複数の変数から要因分析を行う力を身に付けます。

統計調査論：統計調査、国際統計、統計分類

統計調査では、統計調査の企画や調査票の設計、結果の集計・公表・提供など、統計調査の実施全般について学びます。国際統計では、世界の統計体系、国際基準、国際統計の情報源などについて学びます。統計分類では、統計分類の仕組み、産業分類の主な変更点などを学びます。

人口・社会統計分析：人口分析、社会分析など

人口分析では、人口統計の体系と調査概要、人口分析の手法、将来人口推計の手法、現下の人口問題などを学び、基礎的な分析力を身に付けます。社会分析では、社会現象にアプローチする上での基礎的なデータ収集法及びデータ分析法などを学びます。

経済統計分析：経済分析基礎理論、国民・県民経済計算、消費・物価分析など

経済分析基礎理論では、経済学の基礎知識を習得するとともに、基本的な分析手法などを学びます。国民・県民経済計算では、その意義、SNAの概要、回帰モデルによる分析手法の基礎などを習得します。消費・物価分析では、その体系や物価指数理論、消費・物価分析の手法、現下の消費・物価問題などを学びます。

統計データアナリスト研修

「公的統計の整備に関する基本的な計画」において、統計作成のみならず政策立案の支援も行う統計業務資格保有者である「統計データアナリスト」を育成することとなっており、本科（総合課程）は「統計データアナリスト課程」と位置付けられています。

統計データアナリストに必要な統計作成プロセスの各業務に必要な事項、品質管理、関連制度、政策への統計データの活用について学習することにより、統計データアナリストに必要な知識を身に付けます。

～個人研究やグループ演習も行います～

座学による理論の習得のほか、個人でテーマを決めて分析・発表する個人研究及びグループで統計調査の企画・設計から集計・発表までを行うグループ演習を行います。

個人研究

受講者それぞれが、興味のある分野について研究テーマを設定した上で、研修で学んだ統計理論や分析手法を用いて分析を行い、レポートを執筆するとともに、プレゼンテーション手法を学び、発表も行います。



個人研究発表の様子

調査企画（グループ演習）

5人程度のグループで、どのような調査を行うかのテーマを選定した上で、調査票の作成、標本設計、結果表の作成など、調査の企画設計全体に係るグループ演習を行います。

公務における統計データの利活用の重要性はますます高まっています。本科（総合課程）では、約1か月間で、初級及び中級のオンライン統計研修を修了し、2か月間の対面研修で、統計に関する知識を網羅的に習得できる研修内容となっています。是非受講、派遣を御検討いただければと思います。統計研究研修所は、皆様の受講をお待ちしています。

御不明な点については、下記の間合せ先まで御連絡ください。

間合せ先：統計研究研修所 管理・研修部

研修企画課 企画係

TEL：042-320-5874

E-mail：o-kenkikaku@soumu.go.jp

令和6年度統計研修受講記

令和6年度「本科（総合課程）」を受講して

鹿児島県総合政策部統計課 濱田 大地

私はこれまで、理工系の大学院での研究や本県統計課の業務の中で必要に応じて統計的手法を独学し、活用する機会があったものの、その知識や理論等は断片的であり、統計に関する体系的な知識・スキルの必要性を感じていました。そんな中、本研修について参加の打診があり、鹿児島県を代表して本研修を受講させていただきました。

講義の内容は、統計学や経済学の理論、統計調査の方法論、プログラミングを用いた分析手法など基礎的な知識やスキルをベースに多岐に渡りました。演習ベースの講義も多く、実際に手を動かすことで、現場でも使える生きた知識を身につけることができたと思います。

グループ演習では、受講生同士で5人程度のグループを作り、統計調査の企画から調査実施、結果の集計、公表までの一連のプロセスを体験しました。これまで、私は加工統計の作成、分析といった業務がメインであり、調査統計の現場を経験したことがなかったので、調査統計の作成サイドの思考を知ることができる貴重な経験になったと思います。

個人研究では、県民経済計算の一人当たり県民所得という指標をターゲットとして、機械学習による予測や有力指標の探索をテーマに、分析、レポート作成、発表を行いました。せっかくの機会ということで、普段できないような少し高度なテーマにチャレンジしました。データ収集、データセットの前処理、分析手法の理解、分

析結果の解釈及びその考察等どれをとっても奥深く、難易度の高いものであり、失敗と試行錯誤を重ね、レポート提出も期限ギリギリにはなりましたが、良い経験ができたと思います。

私は、遠方からの参加であったため寮に入りました。最初は正直、私が過度の人見知りというのもあり、少し距離がありました。が、同じ寮生を中心に積極的に関わってくれたことで、徐々に試験勉強や個人研究、遊び等を通して交流の輪が広がり、親睦を深めることができました。様々な背景を持つ寮生や研修生に恵まれ、仕事の枠を超えたかけがえのない関係を築け、技術だけでなく人間的にも充実した研修になったと思います。

近年、ビッグデータ、AIといったテクノロジーの進展が目まじしく、その影響は多分野に及び行政においても無視できない存在になっています。現実問題として、本県は地方ということもあり、海外や都市部と比較し、データサイエンスやハイテク分野はどうしても遅れがちな部分はあると思いますが、今回の研修で学んだ知識をまずは身の回りから現場に還元し、少しでもEBPM等に広げていければと考えています。

最後に、このような研修を御提供していただいた講師や研修所の皆様、共に学び交流した研修生の皆様、共に修羅場をかいぐった寮生の皆様、また、送り出す体制を整えてくださった県統計課の皆様、そして、研修中も温かく見守ってくれた家族にこの場を借りて感謝申し上げます。

最近の数字

			人 口		労 働・賃 金			産 業		家計(二人以上の世帯)		物 価	
			総人口 (推計による人口)		就業者数	完全失業率 (季節調整値)	現金給与総額 (規模5人以上)	鉱工業 生産指数 (季節調整値)	サービス産業 の月間売上高	1世帯当たり 消費支出	1世帯当たり 可処分所得 (うち勤労者世帯)	消費者物価指数	
			千人(Pは万人)		万人	%	円	2020=100	兆円	円	円	全国	東京都区部
												2020=100	2020=100
実数	2024. 12	12	123,744		6811	2.5	617,375	101.0	36.9	352,633	975,024	110.7	109.8
	2025. 1	1	P 12359		6779	2.5	292,468	99.9	P 33.4	305,521	419,972	111.2	110.2
	2	2	P 12354		6768	2.4	288,697	102.2	P 33.6	290,511	474,345	110.8	109.7
	3	3	P 12344		6770	2.5	309,059	102.4	P 42.6	339,232	426,178	111.1	110.2
	4	4	P 12340		6796	2.5	P 302,453	P 101.5	...	325,717	475,520	111.5	110.7
	5	5	P 12334		...	...	...	...	...	...	...	...	P 111.1
前年 同月比	2024. 12	12	-		0.8	* 0.0	4.4	* -0.3	2.1	2.7	3.0	3.6	3.1
	2025. 1	1	-		1.0	* 0.0	1.8	* -1.1	P 5.6	0.8	-1.7	4.0	3.4
	2	2	-		0.6	* -0.1	2.7	* 2.3	P 3.8	-0.5	-2.3	3.7	2.8
	3	3	-		0.7	* 0.1	2.3	* 0.2	P 6.6	2.1	-2.5	3.6	2.9
	4	4	-		0.7	* 0.0	P 2.3	* P -0.9	-	-0.1	0.9	3.6	3.4

(注) P：速報値 *：対前月
家計（二人以上の世帯）の前年同月比は実質値
サービス産業の月間売上高における2024年12月以前の実数は、母集団情報変更・標本交代等により生じた変動を調整した値

掲示板 統計関係の主要日程（2025年6月～2025年7月）

《会議及び研修関係等》

時 期	概 要	時 期	概 要
6月2日	ブロック別統計主管課長会議(中国・四国ブロック)	6月11日	オンライン統計研修【第1回】「統計データアナリスト研修」開講(～7月8日)
3日	統計データアナリスト研修「本科(総合課程)」開講【集合】(～8月1日)	〃	オンライン統計研修【第1回】データ利活用コース「データサイエンス演習」開講(～7月8日)
5日	ブロック別統計主管課長会議(関東甲信静ブロック)	〃	オンライン統計研修【第1回】データ利活用コース「誰でも使える統計オープンデータ」開講(～7月8日)
10日	ブロック別統計主管課長会議(北海道・東北ブロック)	7月18日	ブロック幹事県等統計主管課長会議
11日	オンライン統計研修【第1回】統計取扱業務担当職員向け研修「統計担当者向け入門」開講(～7月8日)	23日	登録調査員中央研修
〃	オンライン統計研修【第1回】統計実務職員(統計データアナリスト補)研修「統計分析の基本」開講(～7月8日)		

《調査結果の公表関係》

時 期	概 要	時 期	概 要
6月6日	家計調査(家計収支編：2025年4月分)公表	7月4日	小売物価統計調査(ガソリン)2025年6月分公表
〃	家計消費状況調査(支出関連項目：2025年4月分)公表	18日	消費者物価指数(全国：2025年6月分)公表
〃	消費動向指数(CTI)2025年4月分公表	〃	小売物価統計調査(全国：2025年6月分)公表
〃	小売物価統計調査(ガソリン)2025年5月分公表	22日	人口推計(2025年2月1日現在確定値及び2025年7月1日現在概算値)公表
20日	消費者物価指数(全国：2025年5月分)公表	24日	サービス産業動態統計調査(2025年5月分速報及び2025年2月分確報)公表
〃	小売物価統計調査(全国：2025年5月分)公表	25日	消費者物価指数(東京都区部：2025年7月分(中旬速報値))公表
〃	人口推計(2025年1月1日現在確定値及び2025年6月1日現在概算値)公表	〃	小売物価統計調査(東京都区部：2025年7月分)公表
〃	統計でみる市区町村のすがた 2025 刊行	〃	家計調査(貯蓄・負債編：2025年1～3月期平均)公表
23日	サービス産業動態統計調査(2025年4月分速報及び2025年1月分確報)公表	〃	住民基本台帳人口移動報告(2025年6月分)公表
26日	住民基本台帳人口移動報告(2025年5月分)公表	29日	経済構造実態調査(2024年二次集計結果)公表
27日	労働力調査(基本集計)2025年5月分公表		
〃	消費者物価指数(東京都区部：2025年6月分(中旬速報値))公表		
〃	小売物価統計調査(東京都区部：2025年6月分)公表		
〃	小売物価統計調査(構造編)2024年結果公表		
7月4日	家計調査(家計収支編：2025年5月分)公表		
〃	家計消費状況調査(支出関連項目：2025年5月分)公表		
〃	消費動向指数(CTI)2025年5月分公表		

編集発行



総務省統計局

〒162-8668 東京都新宿区若松町19-1
総務省統計局 統計情報利用推進課 情報提供第一係
TEL 03-5273-1160 E-mail y-teikyoul@soumu.go.jp
ホームページ <https://www.stat.go.jp/>
御意見・御感想をお待ちしております。